opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 73

1975年、聖ホセマリアは、自身が「3つの狂気」と呼んでいたもののうちの2つを完成させます。

2025/03/17

過去の記事はこちらから

2ヶ月にわたるイベリア半島のカテケージスの旅は実り多いものでしたが、71歳の聖ホセマリアの体にはきついものでした。また教会の混乱はひどくなるばかりで、そのことが師

の精神に重くのしかかっていました。「私はいつこの世を去ってもおかしくない」という発言が聞かれるようになりました。とはいえ、教会と人々の救いを考えると、見違えるように元気になります。この頃2つの大きな事業に取り組んでいました。

一つは聖母マリアを称える教会を立 てることでした。場所は故郷のピレ ネー山脈のトレシウダッドです。そ の地方で800年前から崇敬されてい る聖母像を飾る教会を建てようとい うのです。それは、聖母の取次に よって人々が信仰を深め、家族や社 会でよりよく働くことができるよう にとの望みからでした。教会の内部 には聖マリアの一生の様々な場面を 描いた彫刻を飾り、40の告解場を備 えた地下礼拝堂を作りました。当 然、大きな経済的な困難を乗り越え ねばなりませんでしたが、世界中か

らの寄付や協力を得て、1975年に奇 跡的に工事は完成しました。

この工事中にもう一つの大工事が始 まっていた。それは、ローマに教会 の大学に勉強しに来るメンバーのた めの住居でした。当時そのような学 生は、本部の建物に寝起きしていま した。しかし、学生の数も本部の仕 事も増えたことで、本部と寮を分け ることが望まれました。そこで、市 の郊外に土地を見つけ、そこに学校 兼宿舎を立てることにしました。聖 ホセマリアはそれを建物の間に広場 や街路があり、運動場やプールのあ る緑の庭が広がる村のようにするこ とを望みました。不安定な政治情勢 や労働問題の激化(頻繁に労働者の ストライキが起こる)、物価の高騰 など次々と困難が出てきます。この 企画を断念、変更または遅らせると いう勧めもありましたが、聖ホセマ リアは断固として皆を励まし、工事 は1975年春に完成しました。

師は上記の2つの大工事を「3つの 狂気」と呼んでいました。誰かが 「3つ目は何ですか」と尋ねると 「誰の面倒にもならずに適切なとき に死ぬこと」と答えていました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-73/ (2025/12/02)